

ことから研究を始めることにした。

(1) 問題点①「時間がとれないこと」についての考察

紀要第34号によれば、本県小・中学校における一回の授業研究の各段階にあてられる時間は、およそ、(1時間は45分見当で)

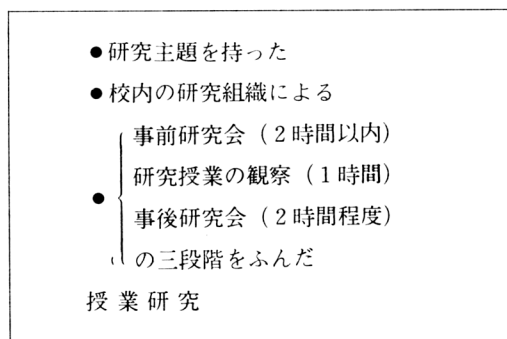
- 事前研究会…………… 2時間以内
- 研究授業の観察…… 1時間
- 事後研究会…………… 2時間程度

で、事後研究会は、ほとんどの学校が研究授業実施当日に行っている。多忙な学校にあっては、校内組織による授業研究ではあっても、これにあてる時間は、そう取れない現状がうかがわれる。

学校において、授業研究のための時間をどのように確保するか、という問題は、今回の研究には取り上げないことにし、この時間的制約を一応認め、これを前提として研究を進めることにした。

(2) 本年度の研究の出発点

わたしたちの研究対象とするのは、



ということになった。以下、この授業研究を「2-1-2方式の授業研究」と呼ぶことにする。

このように、研究対象とする授業研究を限定すると、この「2-1-2方式の授業研究」実施上の問題点は、②、③の二つになる。わたしたちは、これらの問題点の解決によって、より改善された授業研究の方法を確立するために、まず、この解決に焦点をしばったのである。本年度の研究の出発点は、ここであった。

ここで、「2-1-2方式の授業研究」について考察

しておく。この方式の授業研究の性格を知ることには、後に述べる問題点②、③の分析を理解するのに必要であると考えからである。

(3) 「2-1-2方式の授業研究」について

授業は何年やっても難しい。よく、「本当に、心から満足できる授業ができたと思うのは、年に何回か数えるほどしかない」というベテラン教師の話を聞く。

ここでいう授業とは、いわゆる「本時の目標の達成」だけをねらいとした授業のことであり、それだけでも「難しい」というのである。

この授業研究における研究授業では、「本時の目標の達成」のほかに、「研究主題の解決」という課題を持っており、この二つの課題は、密着している場合もあり、そうでない場合もあるが、とにかくひとつの授業の中で、この二つの課題の解決をはからなければならないのである。ふつうの授業での、「本時の目標の達成」だけでも大変なのに、この研究授業では、「研究主題の解決」までも要求されるのであるから、教師自らが自らに課した研究とはいえ大変難しいことであり、それには、教師の力量と努力とが要求されるであろう。

ともあれ、わたしたちは、この授業研究の、その実施上の問題点の解決を、まず目指して、研究を進めることにしたのである。

(4) 問題点②「研究授業の学習指導案の作成が難しいこと」についての分析

この授業研究の研究授業でねらうものは、「本時の目標の達成」と「研究主題の解決」であった。このうち、前者に関しての学習指導案の作成が難しい、などとは、少なくとも専門職としての教師のいうべきことではあるまい。とすれば、問題点②「研究授業の学習指導案の作成が難しい」というのは、「研究主題の解決」の方策を、学習指導案の中に位置づけるのが難しい、ということになるであろう。

いや、そうではなくて、問題点②は、その歩前の「研究主題の解決」の方策が、明確に具体化